

Information

2019 11/3 第27回「若葉区民まつり」

東京情報大学キャンパス内にて11月3日(日)に開催される第27回「若葉区民まつり」に今年も参加します。臨床検査技師や看護師の専門職が同席し、健康相談も開設します。ご来場の折は「健康測定ブース」にぜひお立ち寄りください。



【前年度実施内容】

- ① 血糖値測定
- ② 血圧測定
- ③ 健康相談

2019 10/6 「歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」に参加しました

青葉の森公園で10月6日(日)に開催された第24回千葉県糖尿病協会「歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」に、当院「あゆみの会」からも患者さまや医師、看護師、栄養士等の計12名が参加しました。配布された地図をたよりにコースを歩き、各チェックポイントでは糖尿病に関するクイズに挑戦したり、血糖値を測定しながら、目標タイムでのゴールを目指しました。



加曽利あゆみの会 (平成11年11月11日設立) ～当院「糖尿病センター」の患者友の会～

ご入会いただくと、患者さま同士の情報交換や患者さまと医師・看護師・栄養士等の医療スタッフの交流により、限られた診察時間では得られない様々な知識を深められます。また、健康増進を目的とした様々な活動へご参加いただけます。(毎年さまざまなイベントを企画・実施しております。)

会員募集中

千葉県糖尿病協会主催の第16回市民のための糖尿病教室を松戸市/森のホール21にて11月17日(日)に開催します。講演やパネルディスカッション他様々な催しを予定しています。

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

8月に海外初挑戦ながらゴルフのメジャー大会「全英女子オープン」を制し、現地メディアに「スマイリング・シンデレラ」と名づけられた、渋野日向子選手のこぼれんばかりの笑みは大変魅力的でした。ところで、皆さまは1日に何回くらい声を出して笑っていますか？最近あまり笑っていないなんて思われた方も多いのではないのでしょうか。笑顔にはさまざまな効能があり、よく笑うほど健康度が高いことが分かっています。笑うことで心身がリラックスしストレスが解消される・血圧や血糖値を下げる効果があり生活習慣病の予防になる・免疫力を高める・認知症リスクを軽減する・60歳以上の高齢者では骨密度が高まるという調査データもあります。すべて良いこと尽くめですね。笑い過ぎておなか痛くなるのも、胸、おなか、腰、背中など様々な部分の筋肉を使っているための現象で、筋肉トレーニングにもなっているのです。声を出して腹の底から笑ってみれば、あらずきり。お金のかからない健康法です。昔から「笑いは百薬の長」「笑う門には福来る」などと言われています。皆さま大いに笑い合いましょう。



CCMC ニュース 69号
●今月の寄稿者・取材協力者
松葉 芳郎 (診療部)
工藤 誠 (診療技術部)
青木 美智子 (看護部)
加藤 亜友美 (看護部)
清水 千賀子 (事務部)
＜編集＞ 広報委員会
<http://www.ccmc.seikei-kai.or.jp/>

◆当院へのご意見・ご要望は 総合相談サービスセンターにお寄せください。043-232-3691(代)

2019 8/23 千葉市健康づくり推進事業所表彰

千葉市では、2013年度から健康づくり事業を推進し、職場での従業員の健康づくりに取り組んでいる市内の事業所等を「千葉市健康づくり推進事業所」として認証しています。8月23日に千葉市役所で開催された表彰式で、当院は「千葉市健康づくり優良事業所賞」を受賞しました。



2019年4月1日現在
46社認証



前列左から2人目 当院福田院長

2019 10/5 イベント開催「越中おわら節」

10月5日(土)、当院新館1階内科外来待合ロビーにて『越中おわら愛好会』の皆さまによる踊りが披露されました。踊りには『豊年踊り』『男踊り』『女踊り』があり、笠をかぶった踊り手が民謡「越中おわら節」に合わせて踊ります。会をご指導される山端先生から「おわら」の歴史や踊りの所作について学んだ後は、参加者も輪踊りに加わり大いに盛り上がりました。



一緒に輪踊りに参加しました

☆越中おわら節とは、富山県八尾町で三百数十年にわたって歌い踊り継がれてきた民謡です。その唄に合わせ9月1日から3日間、五穀豊穡を祈願して踊られる「越中八尾おわら風の盆」では多くの観光客を集めています。

千葉中央 メディカルセンター

ニュース 第69号 令和元年10月20日



企画：千葉中央メディカルセンター 広報委員会
千葉市若葉区加曽利町 1835-1 043(232)3691

1面：(特集)外科 2面：リハビリテーション課 3面：糖尿病教室開催・ふれあい看護体験 4面：インフォメーション

特集：外科

副院長、外科部長 松葉 芳郎

【一般・消化器外科分野】

外科治療の進歩に伴い、当院の一般・消化器外科でも内視鏡外科治療が主流になっています。腹腔内に二酸化炭素を送気して、腹腔を膨らませてその空間に手術器具を挿入して、同じく腹腔内に挿入したビデオカメラの画像を見ながら操作して、手術を行う腹腔鏡下手術です。最近では3Dの技術も応用されています。開腹手術に比較して切開創が小さくできるので、術後の疼痛が少ない、術後の腸管運動の回復が早く、入院期間の短縮や、仕事へ早期復帰が可能であることなどが長所とされています。



腹腔鏡下手術の様子

現在当院では、平成30年10月より順天堂浦安病院外科におられた飯田義人先生が着任され、肝・胆・膵領域を中心に、当院の内視鏡外科治療に多大な貢献をいただいております。内視鏡外科治療分野の治療精度がさらに向上しています。具体的には胃癌、大腸癌(結腸・直腸)、胆石胆嚢炎、膵臓腫瘍、そけいヘルニア、虫垂炎などの手術では内視鏡外科手術が第一選択になっています。平成30年1月から12月までの手術統計を用いると、大腸の悪性腫瘍手術(大腸癌)65例のうち、約70%が内視鏡外科手術で治療され、術後疼痛の軽減、入院期間が短縮されております。胆嚢摘出術では、全体で100例のうち約80%以上が内視鏡外科治療です。また、そけいヘルニアでは鼠径部の癒着が懸念される下腹部の開腹手術後や前立腺全摘術後を除いて、第一選択は腹腔鏡下のヘルニア修復術になっています。術後の疼痛も前方アプローチの手術に比較して軽く、約3日の入院で治療可能です。平成29年1月から12月の統計では腹腔鏡下のヘルニア修復術は部位別に鼠径部67例、大腿部1例、閉鎖孔3例となっています。また急性虫垂炎手術では90%が内視鏡外科治療されております。

【乳腺外科分野】

さて、当院の外科のもうひとつの分野である乳腺外科について御紹介いたします。当院の乳腺外科は次のような内容で診療しています。**診断**：日本乳がん検診精度管理中央機構の定める基準に従って、マンモグラフィ、超音波検査画像を判定しています。千葉市の乳がん検診精密検査機関に指定されており、放射線科、誠馨会病理センターと連携して診断しています。**治療**：当院は日本乳癌学会認定関連施設です。日本乳癌学会ガイドラインや欧米のガイドライン・コンセンサスに従う、標準治療を提供しています。**他科との連携**：日本乳房オンコプラスティックサージェリー学会に所属し、形成外科と連携して乳房再建が可能な体制をとっています。また、持病(心筋梗塞、脳梗塞、糖尿病、骨粗鬆症など)をお持ちの方も、安心して治療を受けていただけるように、各科と協力しています。各種リハビリも、リハビリテーション科で行っています。抗がん剤治療などで体調を崩された場合は、救急外来で24時間対応しています。**他院との連携**：近隣の検診施設や乳腺外科とも連携して、乳癌の診断、術後の薬物療法や定期検査などを行っています。千葉県がんセンターの「乳がん術後経過観察地域連携クリティカルパス」に参加しています。また、近隣の放射線専門施設に、術後照射などのご協力をいただいております。平成30年1月から12月の乳腺悪性腫瘍手術は40例で、乳腺専門医の松田充宏医師により各患者さんにきめ細かく対応するオーダーメイド治療が行われています。以上、千葉中央メディカルセンター外科の現在の内容に関して御紹介させていただきました。

*** スタッフ紹介 ****

【一般・消化器外科】

- 部長 松葉芳郎 (専門外来：ヘルニア外来)
- 主任医長 飯田義人 (専門外来：肝・胆・膵外来)
- 医長 間宮俊太 (専門：大腸癌、胃癌、内視鏡治療、化学療法)
- 医員 関口泰弘



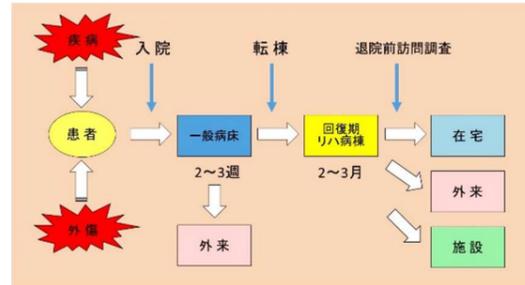
【乳腺外科】松田充宏



CCMC診療技術部「リハビリテーション課」紹介

千葉中央メディカルセンターは、地域の救急医療に携わっている病院ですが、同時に医学的リハビリテーションに病院全体で取り組んでおります。特に救急患者を取り扱う病院ですので、脳血管疾患(脳出血や脳梗塞など)を発症直後の方や、骨折やそのほか外傷を負われた患者の方々の超早期のリハビリテーションを行っています。その他、心疾患やがん、呼吸器疾患、ご高齢の方や手術後など長期臥床による廃用症候群等々、様々な状況でのリハビリテーションに対応しています。当院のリハビリテーション課では、このような患者の皆さまに対応すべく、理学療法士 36名、作業療法士 15名、言語聴覚士 6名、助手 3名の人員を配置しています。

ただ、この期間内も一刻も早く良い状態で在宅復帰していただくために奮闘しております。そして、当院で対応している医療保険から介護保険への橋渡しや、よりスムーズに在宅復帰するために、ご自宅への訪問調査を行うなど工夫を凝らした対応をしております。



ちなみに、この回復期リハビリテーション病棟ですが、おおよそ 3/4 の方々、つまり約 75%が在宅復帰されています。これは非常に良い結果ですが、もちろん、リハビリテーション課のみで全てが賄えるわけではありません。入院時より、医師、看護師、ソーシャルワーカーその他全ての部署、そして当課が協力し、意思疎通を行いながら対応している結果が表れた数値と思われま。今後とも、この状態を維持しつつ、地域のリハビリテーションに貢献できればと考えております。



リハビリテーション課課長 工藤 誠



これら 60 名のスタッフが、身体面や生活面の障害、コミュニケーションや嚥下機能、高次脳機能障害に対して、365 日の体制で協力しながら治療しております。発症直後は非常に身体状況の不安定な方が多数おられますが、リスクに配慮して極力早期に治療を開始します。そして出来るだけ良い状態で、出来るだけ早く在宅復帰していただくように努めております。疾患にもよりますが、在宅復帰の可能性のある方には回復期リハビリテーション病棟も利用し、より良い形での在宅復帰を考えております。当院の平均在院日数は概ね 2 週間程度ですが、回復期リハビリテーション病棟はそれぞれの状況で定められた標準的期間内で対応します。

コンビニ「生活彩家」オープンのお知らせ♪

コンビニ「生活彩家」オープンのお知らせ♪

Quality Store 生活彩家 SEIKAISAI

生活彩家 千葉中央メディカルセンター店

2019.9.18(WED) OPEN

営業時間: 平日 8:30~18:00 土日 8:30~18:00

定休日: GW・年末年始・最終日曜日

【お支払い方法】現金の他、各種バーコード決済・電子マネー・クレジットカードもご利用いただけます。

各種商品を取り揃えております

インフルエンザ予防接種

予約受付中 直接

■申し込み ご希望日を「受付」にお申込みください ※電話受付不可

■受付時間 午後2時(受付初日のみ)から午後5時まで

■持ち物 ・接種料金 ・診察券(お持ちの方) ・免除対象者の方は、免除確認のできる書類(令和元年度介護保険決定通知書など)

外来接種予定日: 11/5, 12/19, 26 火曜日 午後2時

※各回とも、お申し込みは1日200名まで ※先着順となりますのでご希望の方は お早めに!

「糖尿病教室」開催のお知らせ

糖尿病患者は約 1000 万人、予備軍を合わせると約 2000 万人(平成 28 年の「国民健康・栄養調査」と報告されています。世界の糖尿病患者数は 4 億 1500 万人(国際糖尿病連合 2015 年発表)と爆発的に増加している中で、日本の増加は食い止めることができている。とは言いつものの、他の疾患よりも圧倒的に患者数は多く、進行性の病気であることから良好な血糖コントロールが保てないと合併症を起こす可能性が高いことには変わりありません。糖尿病を持つ方々が、糖尿病があっても豊かな生活を送ることが患者様ご自身と私たち医療者の願いでもあります。

そこで糖尿病センターでは、10 月から「糖尿病教室」を開催することにしました。糖尿病についての基本を学んでいただき、皆様の生活にお役立ていただきたいと思います。当院には、糖尿病専門医だけでなく、日本糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師や理学療法士がいます。この他、糖尿病看護認定看護師や健康運動指導士、管理栄養士などの専門スタッフが、糖尿病についてわかりやすくお話しします。当院の患者様だけでなく、他院に通院されている患者様やご家族も、地域の方々にもご参加いただけます。身近なお友達などもさそって参加してみませんか?

糖尿病センター 主任 青木 美智子

【開催日時】

第 2・第 4 月曜日から木曜日
午後 3 時~4 時(終了は多少の前後あり)
詳しくは下記の図をご参照ください。

【お申込み】

電話で「糖尿病センター」までお申し込みください。
Tel 043-232-9845(代) 糖尿病センター(内線 7103)
受付時間: 平日午後 4 時~5 時
☆開催月によっては予定の変更があります。予約の際に確認してください。

糖尿病センターでは、フットケア外来も実施しています。詳しくは、糖尿病センターまでお問い合わせください。



月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
糖尿病と合併症 医師	運動療法 健康運動指導士	糖尿病の検査 医師	薬物療法 薬剤師
食事療法 管理栄養士	足病変の予防 看護師	日常生活の過ごし方 看護師	シックディと低血糖 看護師

@祝日が入る場合は、午後4時半くらいに延長して3日間行います。 CCMC糖尿病センター

「ふれあい看護体験」報告

当院で 8 月 6 日と 20 日の 2 日間、高校生を対象とした『ふれあい看護体験』を開催しました。両日で男女計 20 名の看護や医療の現場に興味のある高校生が参加してくれました。参加者は実際にナース服に着替えて、病院内の施設を見学しました。



患者さんと一緒にリハビリに参加し、風船やボールを使用して身体を動かしたり、合唱をしました。今年度より業務改善委員会のスタッフが企画・運営に参加したことで内容も充実し、食事介助や足浴を看護師とともに行ったり、採血モデルの人形を使用して採血にも挑戦しました。その他、手術中に医師が着用するガウンの着替えの介助や、心臓マッサージ・血圧測定など看護師として必要な技術を体験してもらいました。体験を通して、高校生に看護・医療の仕事を知ってもらう良い機会となりました。

2 階第 2 ナースステーション 主任 加藤 亜友美

高校生の皆さんからの感想として、「食事介助や足浴を行い患者さんから『ありがとう』と感謝の言葉が頂けて嬉しかったと同時に看護の仕事にやりがいを感じた」という意見や、「看護の仕事の大変さも知る事が出来たが、様々な体験や患者さんとのふれあいを通して、自分もこういう仕事に就きたい」「看護師として患者さんへ援助できる日が楽しみ」「看護師になるという夢を叶えたい」など、とても前向きで素敵な言葉を聞くことが出来ました。



体験の様子